

平成21年11月市議会定例会一般質問発言通告書

◎ 個人質問

17番 川上 泉

1. 井原市行財政運営の基本的考え方について

1) 市政に対する市民の満足度と健全財政運営のバランスはどこにあると考えているか伺う。

2) 健全財政の堅持の考えのもと、次に掲げる施策が遅れてはいないか伺う。

① 中学校卒業まで医療費の無料化の実施について。

② 老朽化した幼稚園舎の改築を早期に実施し、幼児教育、子育て支援の市内公平性の実現について。

③ 地区公民館の位置づけは、地域で取り組む生涯学習や、本市の重要施策である協働のまちづくりの拠点である。老朽化したまた市民ニーズに対応困難な公民館の改築を早期に実施し、市内公平性を実現することについて。

12番 佐藤 豊

1. 脳脊髄液減少症について

交通事故などの衝撃で脳と脊髄を循環する髄液が漏れ頭痛や目まいを引き起こす「脳脊髄液減少症」に悩む患者に向け地方自治体で医療機関の実態調査や治療可能な病院を公式ホームページで公開され始めています。また、相談窓口や医療費助成の取り組みを実施している自治体もあります。本市における脳脊髄液減少症の認識と今後の取り組みについて伺います。

さらに、学校での体育授業や部活動などの事故が原因で、児童・生徒が脳脊髄液減少症を発症する事例があるとされています。また、この症状の特徴である頭痛や吐き気、倦怠感などの要因で不登校になっているケースも報告される中で、

子どもの場合は早期発見、早期治療で高い治癒率が見られ、不登校解消につながった症例も聞きます。学校関係者への情報と理解が進めば不登校の要因の一つの問題解決につながると考えますが、本市の教職員の認識と今後の取り組みについて伺います。

2. 救急医療情報キットの普及について

災害時要援護者支援プランにおいて、災害時の避難等で支援を必要とする一人一人のプランを整備中の本市であります。東京都港区からスタートし、現在、全国に広がりを見せている取り組みとして「緊急医療情報キット」を高齢者や障がい者の家庭に置いてもらう取り組みがあります。キット内容は本人の住所、氏名、電話番号、生年月日、血液型、かかりつけ医療機関の情報緊急連絡先、服薬内容、持病等の個人情報アルミの筒に収納し冷蔵庫等に保管しておき緊急時に救急隊員への情報提供と迅速な初期対応を実行してもらう安心施策であります。

本市でもいち早く取り組まれている地区もあると聞いています。高齢者や、障がい者が安心・安全に暮らせる取り組みとして、市内全域への普及を推進してはと考えるかと思いますがどうでしょうか伺います。

3. 遊休農地・荒廃農地の拡大抑制対策について

①中山間地の過疎化、高齢化による働き手の不足が大きな要因となっている耕作放棄地の増加、それに伴う荒廃農地の広がり全国的な問題であり解決策が模索されています。そうした中、遊休農地を地権者から借り受け、市民農園として貸し出したり、そば畑として利用してもらうなどの取り組みを実施し始めている自治体が出てきています。本市の第6次総合計画の中にも、「市民農園等での体験的農業に取り組み、荒廃した農地が減っています。」と目指すまちな姿がうたわれていますが、本市としての今後の市民農園等を推進することによる荒廃地抑制に対する方針について伺います。

②岡山県農業協同組合では遊休農地や荒廃農地に菜の花を植えてナタネを収穫する資源循環型まちづくりを推進し、農地の活性化に結び付けようとしていますが、この事業についての本市の取り組み姿勢について伺います。

③鳥獣被害で農作物の生産意欲が後退する中、被害の少ない「唐辛子」や「たらの芽」などの生産による、特産品作りを、JAの協力を得て奨励するなどの取り組みはできないか伺います。

4. 児童虐待抑制体制の本市の現状について

児童虐待防止法が施行された11月を毎年「児童虐待防止推進月間」と定め、種々の防止啓発活動が実施されています。しかし、児童虐待の相談件数は全国的に急激な上昇を見るに至っています。岡山県も人口比で見ると広島県などと並び件数的に多いほうから第2集団に属しています。このような現状から本市においても児童虐待の増加も予測される中、現状と対策、相談体制の取り組みについて伺います。

5番 西田久志

1. 野上町青少年研修広場及び青野町葡萄浪漫館多目的広場の整備と有効利用について

野上町青少年研修広場は、グラウンドの芝にコケが生え、利用者から不満の声を聞いています。コケ類が繁殖するのは、排水不良による土壌の過湿が原因とされています。そこで同グラウンドを排水性のよい土壌環境にして利用促進を図ってはどうでしょうか伺います。

また、青野町葡萄浪漫館についても平成13年に完成し、農産物や加工品の販売等により、来客数及び売上高は年々増加し、魅力ある農業の情報発信拠点施設として定着しました。しかし同館に隣接する多目的広場は、7,600平方メートルの広大な土地でありながら、真砂土の目も粗くまた水溜りができやすいため運動に不向きであり、イベントの駐車場として使う以外は、利用頻度が少なく、利用者も低迷しています。そこで年間コンスタントに利用できるように整備して利用者の増加を促進したらどうか伺います。

1. 新年度の予算編成について

本市経済の先行きに明るさが見えない、また、市民の間にも将来に対する不安感などがある中にあっても、地元経済活性化や雇用対策を始め、医療・福祉・介護・健康対策や教育・文化の振興、道路・下水道等のインフラ整備等、新年度予算に対する期待は大きなものがある。

法人市民税を始め、歳入面に多くの不安材料を抱えている今日、第6次総合計画の計画的な実施が必要であるが、「元気発信都市いばら」の創造に向け、どう取り組まれようとしているのか伺う。

2. 定住自立圏構想の推進について

今日までの広域行政への取り組みを踏まえ、今改めて、広島県側を含む近隣市町の中での、本市の「立ち位置」としての、本市人口の推移、働く者の近隣市町への就業状況、生活圏域としての本市の位置づけ、救急搬送の実情、観光、農業、福祉サービスの広域的な連携等の現状に立脚し、将来にわたる広域行政のあり方を探る組織体として、(仮称)「備中・備後都市サミット」の開催について、併せて、昨年12月、総務省が提唱した、関係市町が相互に連携する「定住自立圏構想」について市長の考えを伺う。

3. 市長の公約である「健康寿命日本一」について

「健康であり続ける」ことは、市民みんなの願いである。今日までの健康に関する事業の評価と成果・課題について伺う。特に、高齢化が進む中、本市のシルバー人材センターの持つ役割、機能及び新年度予算対応について、市長の考えを伺う。

また、三地域三世代交流館である、「いばらサンサン交流館」での世代間が交流する、具体的な事業を伺う。

併せて、本市の高齢者(65歳以上)の医療費総額と、一人当たりの金額、また県内順位、全国順位について伺う。さらに、電子レセプトデータの活用策について、医療費軽減策や後発医薬品(ジェネリック)の普及促進策等、国民健康保険特別会計の健全化を図る視点での考え方について伺う。

市民との情報共有を図り、名実ともに「健康寿命日本一」を目指すべく、行政

の各部署、関係機関・関係団体との協議を踏まえた、(仮称)「健康寿命日本一いばらプラン」を策定してはどうか市長の考えを伺う。

1 番 坊 野 公 治

1. 消防団の団員確保について

地域住民の安心と安全を守る消防団において、団員確保に苦慮している分団が多くあります。

団員確保のための市の支援策についてお伺いします。

6 番 馬 越 宏 芳

1. 介護予防と地域支え合いによる生活支援システムづくりについて

高齢化率が急速に進む中、高齢者が住みなれた地域で介護予防や生きがいをづくりのための活動拠点として、高齢者サロンがありますが、市内に設置されている地域及び施設、サロンの数、活動内容、また課題について伺います。

また、高齢者サロンとして使用するための小地域、小単位の集会施設の新築、改修の補助率を現行の50%から70%に引き上げてはどうか市長のお考えを伺います。

2. 有害鳥獣被害の現状と今後の対策について

有害鳥獣被害対策については、官民協力により鋭意努力されているところですが、一向に被害が減少しているとは思えません。

過去5年間の市全体の被害件数、被害額、そのうちイノシシによる被害件数、被害額の推移を伺います。

岡山県の第2期イノシシ保護管理計画では、平成24年3月までに被害額を半減すること、農業従事者自らが捕獲できるよう狩猟免許取得を奨励すること等が示されています。イノシシによる被害が増加傾向にある現状について、また猟友会への協力呼びかけを含み被害対策への取り組みについて伺います。

1. 障害者の支援について

市長はこの3年間「笑い」をテーマに各種事業を展開し、市民の健康増進を図り、健康寿命日本一を目指してこられました。そうした中、何らかの障害を持った人達が本当に笑える施策となっているのか疑問を持つところです。

特に知的障害者（児）とその家族の方々への支援策について、これまでの成果及び施設整備を含めた今後の取り組みについて伺います。

11番 宮地俊則

1. 市議会の「地域医療等を考える調査特別委員会」の報告書に対するその後の対応について

昨年12月、井原市議会の「地域医療等を考える調査特別委員会」の報告書をまとめ市に提出し、対応策などを示していただきましたが、その後の進捗状況などをお伺いします。

1) 休日・夜間診療体制の整備充実について

医師会をはじめとする関係機関と協議し検討していききたいとのことでした。その後、どのように進んでいるのでしょうかお伺いします。

具体的な対応として検討会を開催していききたいとのことでしたが、今日までにどのくらい開催され、それぞれどういった内容だったのでしょうかお伺いします。

2) 市民病院の医療体制について

①事業管理者の設置について

この件については前向きな回答をされており、3月議会では管理者給与の条例改正が行われました。その後どのようになっているのでしょうかお伺いします。

②助産師外来の設置について

この提案については、現状では困難であるということでした。

この問題が議論された時、市民病院に本当に産科が必要不可欠なものなのかどうかといった議論もありました。そこで市民の思いを把握しようということから、本年度より助産師と保健師に各家庭を訪問した際に聞いていただくということでありました。まだ1年は過ぎておりませんが、これまでにどのような意見が集まってきているでしょうかお伺いします。

③保育施設の設置について

今議会へも予算措置がされており、年明けには開園されるとのことですが、その詳細と今後の展望、医師・看護師確保への効果をどのように見込んでいるのかお伺いします。

3) 医師確保対策について

一地方自治体だけの努力では限界があるということから井原市地域医療問題検討協議会からの提言もあり、国、県へ要望していくとの回答でありました。医師確保に限らず地域医療改善に向け、本市として来年度予算にどのようなものを反映させていくつもりなのかお伺いします。

2. 新型インフルエンザ対策について

今、新型インフルエンザが市内でも蔓延しています。心配されてきたことが現実のものとなったわけですが、この問題についてはこれまでも度々質問されてきました。現実にその渦中にある市民の声としてお伺いします。

1) 先日の提案説明の中で「井原市新型インフルエンザ対策行動計画」というお話がありました。その内容はどのようなものでしょうかお伺いします。

2) これまでも何度か同様の質問がされていますが、改めてお伺いします。急な発熱、特に夜間などにそういった状態になった場合、どういった対応をすればいいのでしょうかお伺いします。

1. (仮称) 福祉支援券の発行について

(仮称) 福祉支援券の発行は、次世代を担う子供たちを安心して産み、健やかに育てるための経済支援や、高齢者の生きがいづくり、長寿社会の充実のための支援ならびに、市内の消費拡大による景気の浮揚を図っていくための市民・取扱店・井原市が一体となって取り組んでいく制度です。

すでに、我が井原市と友好親善都市の縁を結んでいる大田原市では、平成18年4月から市内商工業の活性化を図ることを目的に、大田原市金券制度を導入されていましたが、その後子育て支援を目的として平成19年10月から市民総参加による「子育て支援券(通称・子育てチケット)」事業を実施されています。

市民の皆さんが、子育てチケットを使用すればするほど、市の子育て支援の資金が増えていく制度です。

市民の皆さんが使用されたチケットを取扱店が換金する際に1%を手数料として負担していただき、その手数料を市の支援基金に積み立てます。また、市もそれと同額を同じ基金に積み立てます。積み立てられた基金は、市の子育て支援事業・少子化対策事業・高齢者福祉の充実事業等に充てられるものです。まさに、市民と行政が一体となって取り組んでいく協働のまちづくりそのものであると思います。制度の構築にむけて市長のお考えを伺います。

2. 桜橋の架け替えについて

昭和32年に竣工された桜橋もすでに52年の歳月を経過しました。最近、桜橋も含め強度など耐久度の調査もされたようですが、その結果はどうでしたか。

また、三世代交流のいばらサンサン交流館も来春には竣工されるわけですが、現在の桜橋を現在ある場所から少し上流側に移動させて車も通行可能な橋に架け替えてはと思いますが市長のお考えをお伺いします。

3. 井原市B&G海洋センターのカヌー練習場について

現在、カヌーの指導練習のために西江原地内にあります神戸池を活用して熱心な指導員のもと懸命に練習に励んでおられ、今年も県を代表して中国大会に出場されました。中山間地域の中にあつて条件的には決して恵まれているとは思えません。日々の努力も並大抵のものではないと思いました。ある時期になると藻が

水面を覆い練習より環境の整理に時間を費やすこともたびたびのようです。

そこで、同カヌー練習場を練習しやすいように環境整備をしてはどうか市長のお考えをお伺いします。

16番 鳥越 孝太郎

1. グラウンドゴルフ場の整備について

市民の健康増進対策として、グラウンドゴルフ場の整備は井原市第6次総合計画の中にも重要施策として取り上げられ、施設整備の期待が高まっております。しかしながら今議会の市長の提案説明の中で、これまで検討されたグラウンドゴルフ場整備の基本指針は実質上、白紙状態との表明がなされました。今後どう対応されるのか市長のお考えをお伺いいたします。

2番 藤原 浩司

1. 公共工事における本年度及び6月・9月補正予算での執行状況及び平成22年度の考えについて

- ①本年度の公共事業の発注状況を伺う。
- ②6月補正予算での取り組み事業の執行状況（井原駅舎及び駅周辺施設整備事業、地場産業振興センター改修事業）、9月補正予算での取り組み事業の執行状況（小中学校太陽光発電導入事業）を伺う。
- ③生活基盤近代化事業、中央簡易水道工事における発注状況及び生活基盤近代化事業補助金が本年度で終了するが、今後の取り組みについて伺う。
- ④平成22年度公共事業の発注に対する考えを伺う。
- ⑤市の残土処理場に関して今後どうされるのか伺う。

2. ごみ有料化に対する有料ごみ袋の今後の取り組み及びリサイクルに関する考えについて

有料ごみ袋の製造工場への工場視察、材料検査、製品ラインの検査、完成製品の検査及び製品のリサイクルに対する考えを伺う。

また、有料ごみ袋へ一般企業の広告を募り、少しでも市民皆さんの負担を軽減することについて考えを伺う。

さらに、幼稚園・小学校・中学校の学習等で出たごみ処理について考えを伺う。

3. し尿を含む一般廃棄物収集運搬委託事業に関する考えについて

下水道の整備等に伴う一般廃棄物処理業等の合理化に関する特別措置法への対応、及びし尿・ごみ処理委託について今後の対応を含めて考えを伺う。

3番 上野安是

1. 教育予算の拡充について

井原市を「教育環境充実のまち」とするため、教育予算を今以上に手厚くすべきと考えますが、市のお考えを伺います。

2. 学校図書館の充実について

子どもの心を育てるものとして、本や読書は大変重要だと考えます。

そのため、現在の学校図書館をより充実させるため、必要な蔵書を確保すること及び学校図書館司書を適正に配置することが不可欠だと考えますが、市のお考えを伺います。

3. 幼稚園（幼児園も含む）の教職員数の拡充と採用基準の見直しについて

幼稚園教育を手厚くするため、幼稚園（幼児園を含む）の教職員数の拡充が必要であると考えます。

各園への専任園長の配置や正規教員数の拡充、また現在講師である方の経験を生かすためにも採用基準の年齢制限の廃止をすべきと考えますが、市のお考えを伺います。

4. 市内小学校へのスクールカウンセラー設置について

市内五校の中学校において、在学者の相談に対応し心理的な問題を解決することを目的として、スクールカウンセラーを配置しておりますが、同様に市内小学校への配置も必要だと考えますが、市のお考えを伺います。

5. 学校生活支援員の拡充について

小中学校の児童・生徒に対する学習支援、肢体不自由児等の学校内等の移動及び日常生活上の介助、特別支援教育の推進など、学校における様々な役割をしている学校生活支援員をさらに拡充するべきと考えますが、市のお考えを伺います。

6. 児童虐待防止について

先月11月が「児童虐待防止推進月間」でありました。市として虐待防止のための現在及び今後の取り組みについて伺います。

20番 森本典夫

1. 市長は市民のため、民主党の陳情等一元化に毅然と反対の意思表示を

民主党は、自治体や市議会が国に陳情や要望をする際、民主党県連を通して民主党本部幹事長室に上げ、各省庁に取り次ぐ一元化のルールを提案しています。これは憲法第16条「国民の請願権」の侵害と考えます。

また、国に直接要望を届けるルートは認められていない。そして、政府からの回答も民主党ルートになっています。したがって、政府が特定の政党にしか答えない等の点で憲法第15条第2項「すべて公務員は、全体の奉仕者であって、一部の奉仕者ではない」の侵害であり大きな問題をはらんでいます。

民主党は「首長などの直接要望は評価しない、むしろ逆効果」とまで言っています。市長は井原市民の立場に立ち、このルールに毅然と反対の意思表示をするべきではないでしょうか。

2. ロコモティブシンドローム（運動器機能低下症候群）の対策を策定し、普及と啓蒙を

ロコモティブシンドローム（運動器機能低下症候群）とは、加齢や運動不足などによって運動器の機能障害が起こり、歩行・バランス能力が低下して、寝たきりなど要介護状態になる危険性の高い状態をいいます。

転倒・骨折や関節症などの運動器の障害によって、要支援・要介護状態になる高齢者が多いことから今注目されています。

井原市として、ロコモティブシンドロームの対策を策定し、普及と啓蒙をすべきではないでしょうか。

3. 市民活動総合補償保険制度の充実・改善を

現在、市が全市民を対象に加入している「市民活動総合補償保険制度」は、活動に参加する場所までの往復途上は保険金の給付の対象外になっております。往復途上も対象になるように改善してはどうでしょうか。

また、給付保険金額引き上げの充実をするべきだと考えますがどうでしょうか。

4. 市内の小学校の余裕教室の有効利用を

市内の小学校の余裕教室の有効利用をすべきだと考えますが、市としてはどのような利用計画をお持ちでしょうか。

5. 本庁の情報プラザのパソコンの更新を

本庁1階の情報プラザに市民が自由に使用できるパソコンが3台設置されていますが、機種が古く、色合いも非常に悪い状態です。

このコーナーのパソコンを更新すべきではないでしょうか。

6. 美星町内に児童会館の建設を

井原市内どこに住んでいても等しく安心して児童・生徒が集い、楽しく遊び、学年の隔てなく交流が深められる状況を作るためにも、美星町内に児童会館の建設をしてはどうでしょうか。

7. これまでの私の質問で、その後の検討結果は

- ①市内全幼稚園で給食の実施を（来年度一斉に実施を求めます）
- ②地区公民館に常勤者（公民館主事）の配置を（来年度一斉に実施を求めます）
- ③市内の公共施設（幼保、小、中、高校を含む）の敷地内での禁煙を
- ④肺炎球菌ワクチン接種者に助成制度の創設を
- ⑤西江原幼稚園の駐車場の舗装を
- ⑥各学校すべてに兼務でない学校図書館司書の配置を

4番 箕戸利昭

1. 文化資源を活用した観光行政の推進について

井原市ゆかりの偉人たちの業績を、より多くの人に紹介するため、井原線の市内各駅、運動公園、図書館、いばらサンサン交流館等市内主要施設に偉人を紹介する常設コーナーや案内板を設置し、観光に結びつける工夫をしてはどうか伺います。

また、内山完造先生とつながりの深い中国上海市虹口区と友好親善都市縁組を締結し、文化交流を積極的に進めるとともに観光客の誘致を図ってはどうか伺います。

2. 小規模高齢化集落における交通手段の確保について

本市の小規模高齢化集落でも高齢者の一人暮らしが多くなり、病院通いにも支障をきたしていると聞いています。

小規模高齢化集落における高齢者の交通手段として、福祉タクシー・福祉バス助成等を含め、今後の対応を伺います。

3. 耕作放棄地対策について

市内各地で担い手不足、有害鳥獣被害等により耕作放棄地がふえています。昨年度、農業委員会により耕作放棄地の調査をされていますが、調査の結果と調査を踏まえた今後の取り組みについて伺います。

1. 当初の予算編成に「事業仕分け」の手法の導入を

民主党の政権下、無駄遣いの根絶を目標に、予算編成の参考にする事業仕分けが行われました。事業仕分けは既に2002年から始まり県では岩手県を含む6県、市では神奈川県三浦市1市で実施され、その後この2年間で急速に広まり実施予定分を合わせると44自治体を数えます。岡山市も行政改革推進法に明記された2006年から実施しています。

税金の遣われ方に今ほど、国民が高い関心を持ったことはありません。井原市も市民サイドに立って市民が参画できる事業仕分けを実施するべきと考えますが、市長のご所見をお伺いします。

2. 省庁への陳情一元化の対応について

民主党は省庁への要望・陳情は政治主導を徹底するため、党県連を窓口として一元管理する方針で、首長らが官僚に直接要望することを禁止しています。先の県と民主党衆議院議員の会合で、直接陳情の権利を主張することを見送るよう求める議員が激しく応酬しあいました。その後、知事は上京し省庁に直接陳情されました。民主党県連は仮に接触を図っても「評価しない。むしろ逆効果」との党本部との見解をガイドラインで紹介しています。市長の対応策をお伺いします。